



既存の天井高さをより高める部屋幅と、採光を絞った空間が内外をつなぐ。



横長のリビングと縦に伸びる和室が一体空間の中で緩やかにつながる。

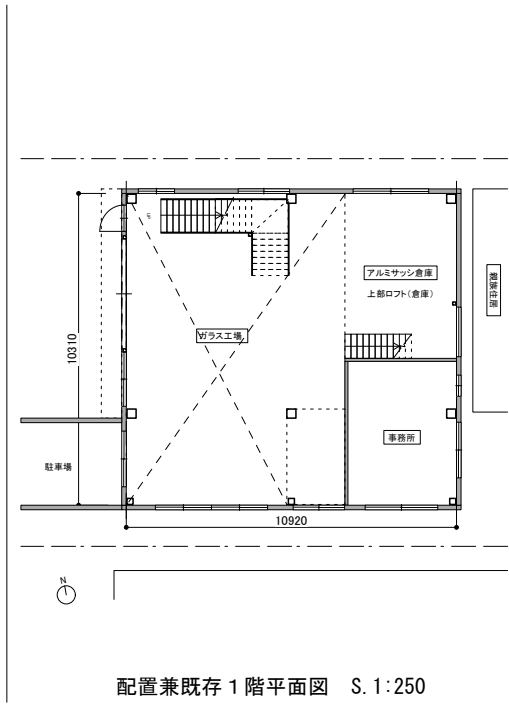


ヒノキの扁平柱と木質セメント板を用いた中庭。面を細分化した下見板張りとした。

# 十塚の家

House in Totsuka

ガラス工場から住宅へのコンバージョンである。長く使われていない工場が1階にあり、その2階に施主家族が暮らしていたが、利便性を考慮し1階を住まいに改築することになった。夫婦が暮らす場所として、既存のような全体が見渡せる空間では住まいとしては単調で大味な空間になってしまうため、それぞれの場所が見え隠れし、様々な種類の光とスケールが交錯した抑揚のある住空間を計画した。建物南側は奥に建つ親戚宅の動線を兼ねる必要があったため、半外部の通り土間を設け駐車及び周辺環境との緩衝空間とした。新たに加えた壁は耐風圧を考慮した柱（40×150×5000）を455mmの等間隔に配置し、道路からの視線を遮断しながら自然光を採り入れる計画とした。本計画では図式的やインテリア的な設計手法ではなく、リノベーションにおける豊かな暮らしの作り方を探求した結果、空間の抑揚と自然光の重なりを用いた設計手法を用いることとなった。



配置兼既存 1階平面図 S. 1:250



既存車を撤去し南側に通り土間を設けた。

